



学校教育目標 「豊かな心、たくましさ、生きる力を身につけた子どもの育成」  
めざす子ども像 「ゆたかな子 たくましい子 よく学ぶ子」

## 令和8年 本年も どうぞよろしくお願いいたします。

新しい年が始まりました。皆さんにとって良い年になりますことを心よりお祈りいたしております。

冬休みの間、保護者の皆様の声かけや地域の皆様の見守りのおかげで、子ども達は大きな事故や怪我もなく始業式を迎えることができました。本当にありがとうございます。

3学期は、1年の中で授業日数が最も短い学期です。3月24日の修了式まで50日、3月17日に卒業する6年生には、45日になります。「あっ」という間に過ぎてしまう3学期をふまえて、1月8日の始業式では、子ども達に以下のお話をしました。

### (1)干支の話

●今年は午年。馬のように元気いっぱいはたらく年(みんなでいうと「勉強する」年)と言われます。いろいろなことが「うま(午)くいく年」にしましょう。大切なのは、自分たちの行動です。自分たちで良い年にしていきましょう。

### (2)こんな 3 学期にしよう！！

◎川波小のみんなになって欲しい「ゆたかな子」「たくましい子」「よく学ぶ子」の確認

●ゆたかな子……地域の方へ元気な挨拶をしよう。ふわふわ言葉を使おう。廊下の右側を歩こう。

●たくましい子……行事を中心に最後まであきらめずに頑張ろう。

●よく学ぶ子……自分の考えを伝えよう。全校で残り 1290 冊(3学期に)の読書をしよう。

【R7年度全校読書目標7250冊 2学期末5960冊達成】

### (3)学習成果発表会について

●今年度から、「学習発表会」が「学習成果発表会」と名前が変わり、時期も11月から3学期の2月に変更になりました。「成果」とは、一生懸命がんばったこと(結果)やできるようになったことのことをいいます。学習成果発表会では、1年間、いろいろな教科学習や地域での学習などで、学んできた内容や成果を、おうちの方や地域の方に見ていただきます。最後まであきらめず取り組みましょう。

子ども達の頑張りを認め、励ましていこうと思っています。

50日間という短い3学期ですが、引き続き学校運営へのご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

## 人権集会「ふわふわことばの木」

12月の人権集会では、「ふわふわことば」についてみんなで考えたことは、前号の「かわなみ」でお知らせしました。「ふわふわことば」とは、言われた人があたたかい気持ちになるような言葉です。人権集会が終わってからも、各学年でも「ふわふわことば」を集める取組をしました。各学年の木がハートの葉でいっぱいになりました。葉にふわふわ言葉がたくさん書いてあります。川波小学校が「ふわふわことば」でいっぱいな学校になって欲しいと思います。





# 川波っ子 学校の様子紹介 (12/8-1/13)

川波小ホームページ(公式サイト)からもご覧いただけます。  
【川波小】で検索してみてください。「学校行事」の中に「令和7年度  
のトピックス」で各行事の様子の写真を掲載しております。「かわな  
み」で紹介しきれなかった活動の様子や写真もあります。スマート  
フォンからも見るができます。 QR コードはこちら→



## 江津市魅力発見(12.8)

5年生が江津市の魅力を探るために、江津のシンボル的な煙突のある「日本製紙株式会社 江津工場」の見学に行きました。工場の特色やそこで働く方の工夫・努力・願いを聞かせていただきました。木材からできる成分を使って、多くの品物や食料等が作られていることを知ることができました。



## ふるさと学習(12.9)

3年生が総合的な学習の時間に、ふるさと教育の一環として、有福温泉地域コミュニティ交流センターに出かけました。有福温泉を盛り上げたお気持ちで移住された方のお話を聞いたり、昔ながらの味噌汁の試飲やドローンの操作体験などもさせていただいたりして、地域の方の思いを知る良い学びの時間になりました。



## 車いす体験(12.18)

4年生が、社会福祉協議会のご協力により、福祉学習の一環として、車いすの体験学習を行いました。車いすに乗ったり、押したりしながら、実際に使っておられる方の思いや補助時の配慮事項について体験を通して学ぶことが出来ました。



## 書初め学習会(12.18・19)

3～6年生が5名の地域の書道の達人を講師に迎え、書初めの学習会を行いました。学年ごとに書き方や気を付けることなどを詳しく教えていただきました。半紙に書くよりも難しかったようですが、集中して練習していました。



## 高齢者疑似体験(1.13)

4年生が総合的な学習の時間に「共に生きる」というテーマで、2学期から「福祉学習」を行っています。今回の「高齢者疑似体験」を通して、高齢者の方の気持ちに寄り添って「自分たちにできることは何だろう」と考えるきっかけとなりました。

